

令和6年度 学校経営の基本方針

館林市立第三中学校
校長 橋本 文明



石垣のような組織

様々な個性・適材適所・大きい石も小さい石も関係なく支え合う



I 学校教育目標

- 広く豊かな心をもつ
- 自ら学ぶ
- 心身を鍛える

II 4つのキーワード

- 笑顔(あいさつ、余裕、優しさ、よろこび、よろこばせる、いじめなし)
- 前向き(前に進む、ピンチこそチャンス、やってみよう、ポジティブ思考、いじめなし)
- 感謝(思いやり、助け合い、協働、自分は生かされている、いじめなし)
- 尊重(様々な事情、自分も他者も大切、年齢・性別・経験問わず、温故知新、いじめなし)

III 目指す生徒像

- ◎他者との共生の中で自分の持ち味を発揮できる生徒
 - 主体性と思いやりのある生徒
 - 正しい知識と判断力を身に付けた生徒
 - 何度でもチャレンジできる生徒

IV 目指す学校像

- ◎それぞれの立場や役割を自覚し、調和のもとにともに向上する学校
 - 生徒にとって自己存在感や達成感を感じられるあたたかい学校
 - 一人一人を大切にできる安全・安心な学校
 - 家庭や地域から信頼される学校
 - 教師にとってやりがいのある学校
 - 生徒・先生・保護者・地域・その他の方が、三中で(が)よかったという学校

V 目指す教師像

- ◎個とチームの協働を大切に、持ち味を生かして高め合える教師
 - 確かな学力の向上につながる授業改善を行い続ける教師
 - 生徒と向き合い、信頼ある人間関係づくりができる教師
 - 「共に学び」「育てる」という視点を持ち、生徒と関われる教師
 - 生徒に自分の言葉で考えさせ、自己決定を促すことができる教師
 - 人に対して、誠意のある対応ができる教師
 - 謙虚に学び続ける姿勢をもち、成長しようとする意欲を持った教師
 - 風通しのよい職員環境をつくり、互いを尊重し励まし合える教師

VI 3つの柱

「全校一心」／よいチーム三中／生徒も教師も目標の実現に向けて努力
1 豊かな心の育成 2 指導力と授業力の向上 3 信頼される学校づくり

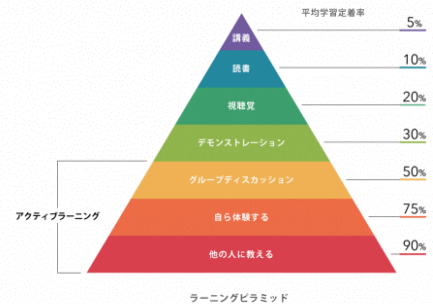
VII 3つの柱の具体的施策

(1) 豊かな心の育成

- ① 基本的な生活習慣(元気なあいさつや返事、時間・時刻やきまりを守る等)の育成と定着
- ② ほめる・認める場面を意図的に作り、生徒のよさ・違い・個性を尊重した、ストロングポイントを伸ばす、自己有用感が高まる指導の充実
- ③ 心の居場所のある学年・学級づくり
- ④ 生徒の人格を尊重して傾聴し、いじめ・不登校・問題行動の未然防止や早期発見、早期対応、早期解決に向けた生徒指導・教育相談体制の充実
- ⑤ 学校行事や生徒会活動を活用した学年間交流の深化
- ⑥ 人権教育の充実、特に外国籍、宗教、LGBTQ等の総合的な理解の推進
- ⑦ 職員間の日常的な情報交換や組織的指導

(2) 指導力と授業力の向上

- ① 個々の生徒を垂直に捉えた理解の充実と置いてきぼりを作らない一人一人を大切にした支援
- ② 通常学級における発達障害等をかかえる生徒への支援
 - 保護者との良好な関係の構築と対象生徒の現実理解、保護者と学校による同一歩調による指導と支援
- ③ 「はばたく群馬の指導プランⅡ」や「ラーニングピラミッド」等を参考に、「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現・充実へ向けた、教師の関わり方やICTの効果的活用を踏まえた授業改善の推進
- ④ 自ら課題を見つけ、自らの学びをマネジメントする力を育成するための家庭学習の計画的(個別最適化も含む)な実施
- ⑤ 生徒が運動の楽しさや喜びを味わいながら、基礎体力の向上と基礎技能の定着を図れるような、運動量の確保を前提とした授業改善や部活動への取組
- ⑥ 管理職による定期的な授業参観やショート・シンプル・クリアに短時間で振り返りを行うことで、教師のスキルアップを図る
- ⑦ 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」に基づく、個々の生徒の実態及び配慮等の内容を共通理解するための体制づくり
- ⑧ 校内教育支援委員会を中心とした適切な教育支援(複数の面談を経た合意形成)



(3) 信頼される学校づくり

① 安心・安全な学校

- いじめ防止基本方針に基づく取組の充実、いじめ防止と早期発見・早期対応・再発防止
- SOSの出し方教育の推進とSOSの受け止め体制の整備
- 登下校時の交通安全・不審者対応等、関係機関と連携した取組の推進
- 管理マニュアルを活用した、災害や事故等から主体的に身を守るための防災教育の工夫と充実

※危機とは

- ・ あらゆる感染症
- ・ 地震、落雷、火災、大雨等の自然災害
- ・ 不審者
- ・ 個人情報漏洩
- ・ 食物アレルギーによるアナフィラキシー、集団食中毒、熱中症、運動時の事故
- ・ 施設の保守管理不備、修繕の不備
- ・ 合理的配慮による理解不足
- ・ 保護者等による生徒虐待
- ・ 教職員の不祥事、不適切な指導(体罰・生徒を威嚇するような指導)
- ・ クレームや不当要求
- ・ 教育課程未履修(指導内容の未履修も含む)
- ・ いじめ問題の発生、ネット上の誹謗中傷等

- 保護者とよい関係を築き、生徒のよりよい成長へ向けた前向きな情報交換の充実

- 複数の眼で確認しながら、ミスのない正確・的確・迅速な事務処理
- 教育公務員としての自覚と誇りを持ち、法令遵守と不祥事ゼロ
- Web ページや H&S を積極的に活用した積極的な情報発信
- 学校評価結果等の情報開示、及びその結果をふまえた学校体制の日常的なアップデート
- CS の活性化による、PTA や地域人材、ボランティア等の効果的活用

②生徒指導体制の確立

- 「よいチーム三中」として、日常からの「組織的対応」
 - ・いじめ、不登校、問題行動の早期発見や初期対応を見逃さないとともに、管理職や学年内への、迅速な報告、連絡、相談、経過報告等を実践を行う
- 教育相談主任を中心とした不登校(傾向)生徒への適切な支援
 - ・本人の心理的な状態や取り巻く環境等、個々の状況に応じた段階的な支援及び学習保障
 - ・関係機関を積極的に活用し、当該生徒や保護者に様々な角度からアプローチをしていく
- 相手の立場に寄り添った学校・学年・学級経営を心がけ、きめ細かく丁寧で迅速な対応

③日常的な業務改善とやりがいや働きがいのある職場づくり

- アップデート・バージョンアップ・リニューアル
- 「みんなで育てる！みんなが育つ！」OJT の推進、メンター研修の推進
- 校務の効率化や業務改善、勤務時間の適正化による自己研鑽の時間の確保
- 法令や PC 操作等のアップデートを行う「ちょこっとスキルアップ講座」の校長による配信
- 「笑顔」「前向き」「感謝」「尊重」「責任ある行動」「品格」等を兼ね備え、風通しがよい職場の構築
- 教職員の心身の健康を保てる職場環境の構築
- 日本語学級を中心に CS を効果的に活用し、外国籍生徒の支援および職員の負担軽減を行う
- 県や市の「適正な部活動の運営に関する方針」に基づく休養日や活動時間の設定等を考慮した適正な部活動の工夫と今後の動向を踏まえた部活動の在り方の検討